

知っていると役立つ! 豆知識

～ハードキャリーケースの使い方～

キャリーケースは移動の時に使うというイメージがあると思いますが、使い方によっては動物の安全基地にすることができます。

★ハードタイプがおすすめ!

キャリーケースには大きく分けて「プラスチック製のハードタイプ」と「布製のソフトキャリー」があります。ハードキャリーは、衝撃に強く、底面もしっかりしているため、移動中も動物たちは安定して過ごすことができます。また、普段からお家の中にキャリーを出しておけば、安全な寝床としても利用できます。普段から寝床として利用することで、災害時や旅行先でも安心できる場所として大活躍します。

★上部と前方に扉があるものがおすすめ!

扉に関しては、動物病院で活躍します。怖がりさんの場合、なかなかキャリーから出てこない子もいます。(特に猫ちゃんが多いです。)

上に扉があれば、処置の内容によってはキャリーに入ったままでできることもあるため、動物のストレスを軽減することができます。






★キャリーケースに慣らそう!

いざ動物病院に行くとき、災害があったとき... 急にキャリーケースを使おうと思っても中々入ってくれないかもしれません。また、普段から動物病院に行くときだけキャリーケースを使っていると「キャリーケース=動物病院=嫌なもの」という認識になってしまいます。なので、普段からお家に置いておき、自由に出入りできる状況にしておいてください。キャリーの中でおやつをあげたり、ご飯をあげたりして、「キャリーケース=いいところ」という認識にしてあげましょう。



おしらせ

●フェイスブックはじめました☆  
お知らせや、病院の日常など投稿しています♪
ぜひご覧ください 



帝京科学大学附属動物病院 


最新のセミナー情報や休診情報などはホームページにアップしていきます! 合わせてごらんください☆



帝京科学大学附属動物病院
ホームページに飛びます。

<https://www.ntu.ac.jp/tac/>

●エキゾチックアニマル診療

ただいまお休み中 

獣医師中田が産休のため、エキゾチックアニマルの診療はしばらくお休みさせていただいております。復帰は5月を予定しておりますが、前後する可能性もございますので予めご了承ください。ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願い致します。



帝京科学大学 附属動物病院 新聞 2019年冬号



気を付けたい疾患シリーズ



今回は寒い冬の時期に気を付けたい病気、

下部尿路疾患

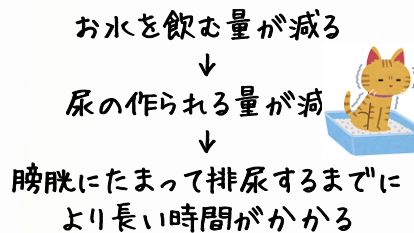
について。

◎どんな病気？◎

寒い時期になるとわんちゃんも猫ちゃんも運動量が減り、まるまって動かない時間が増えてくると思います。おのずとお水を飲む量も夏ほどではなくなってくるでしょう。

そんな季節、気を付けたいのが「下部尿路疾患」です。おしっこの病気です。

下部尿路疾患とは、膀胱から尿道までのところで発症する病気の総称で、猫に多く見られます。膀胱炎や尿石症などが相当します。どのように発症するかというと、



その結果、

→ 細菌が膀胱に長い時間留まり、増殖を続ける = **膀胱炎**

→ 膀胱内の結石成分が結合し、尿石になる = **尿石症**

というようになることが多いです。

◎どんな症状？◎

この疾患にかかると、次のような症状が出ます。

- ・尿に血が混じったり、ピンク色になっている
- ・トイレでしばらくうずくまっている
- ・トイレに行く回数が増えた
- ・少量ずつしか(または全く)尿が出てこない
- ・トイレではない場所で排尿してしまう
- ・元気や食欲がない

以上のような症状が出た時には、下部尿路疾患を患っている可能性もありますので、動物病院へ診察にいらしてください。

◎どんな検査？◎

下部尿路疾患を疑う場合には、他の病気を除外するためにも尿検査、血液検査、超音波検査やレントゲン検査などを行います。

◎どんな治療？◎

《膀胱炎》

- ・細菌増殖の場合、抗生剤の投与
- ・膀胱内を洗浄する
- ・トイレを清潔に保つ



《尿石症》

- ・膀胱内を洗浄する
- ・結石が生成されにくい療法食に切り替える

※重症の場合は入院治療が必要になったり、手術(尿石症の場合)になってしまったりするので、早めに動物病院を受診しましょう!

※再発率の高い病気です。ストレスにも気を付けて生活しましょう。

小鳥の窓



第1回～冬の過ごし方～

鳥さんの体温は約40-42℃と高めです。一般的な飼育鳥は温・熱帯が原産の種類が多く、大きな気候変動や10℃以下になるような環境に慣れていないため、飼育環境を25-30℃位に保つことが理想です(特に雛や老鳥)。ビタミンの生成の為に日光浴は大切ですが、寒い日は無理をせず、暖かい日の午前中に網戸越しの室内で行うか、紫外線ライトなどを利用しましょう。

もし鳥さんがいつもより臆らんで見える、あまり動かない、ふるえているといった状態や行動が観られたら、すぐに環境を暖かくして病院で相談/診察してもらうようにしましょう。

製作者の呟き。

冬はとっても乾燥してきますね。病院に新しくペーパー加湿器が仲間入りしました!



縮こまりがちなの季節、机上がパツと明るくなり心なしか気分も潤ったような気がします。